

花江都
歌舞妓

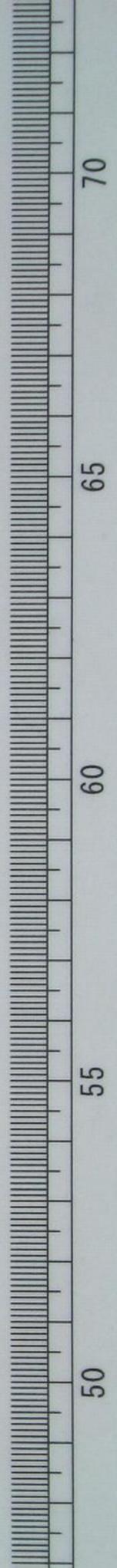
年代記

初編

四

十四

津田文庫
文庫 1
1767
4



早稲田
圖書館

三



大集巻第拾

廿二巻目

宗清人丸親子の対面

中村産

市川外五郎

市川外五郎

010190605529

源氏の白旗を渡さず大高で川はが後家小瀬川菊次郎鎮西八郎よも五郎

かろ。森田座へ **猛勢権五郎景政** 市川團兵衛持立郎の及安倍の字お任浦太郎

鳥の海小龍左衛門貞任女房お袖寄和方浦之。中村座と **大和言葉金助**

源の成朝沢村宗十郎。いさゝ民部お姉川新四郎今川仲秋柳山小四郎

から田武者お助も市川宗十郎頼兼お救野修之郎ふとの吉左衛門鶴を南北

つものもの湯基とよ浦はあ徳川兼之丞あり **享保十八丑年** 春市川座

栄分身曾我 五郎十郎二役坐十郎。秀さあさび伴升五郎白酒うり本名祐成

團十郎よもくけ合せりぬ大評判大高。江戸中男女お侍手て是とまの仙。せりふ

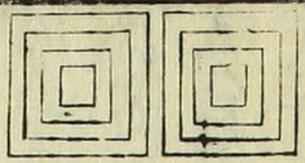
同年 中村座 **妻徳隅州** 不入世て跡狂言 **出入の湊** 足松の忠右衛門お姉川

新四郎。獄門の庄多清市川宗十郎。おんおの喜兵衛沢村宗十郎。大さあさるん

同霜月嵐之右衛門下れ。市村座お見世 **正本太平記** 藤原いがのち。團十郎

モダの十町祐成
市川團十郎

中村座



榮分身曾我

お二番目

五人

おごちかけ合

せりぬ



秀さあさび
市川升五郎

大評判。くちぶ新に郎。又野中家之郎。その太郎中村吉兵衛。これの道外
 方にて其ころの評判。記の上上吉仇名を二朱判といふ。見世より中村座
 若きと勝十郎子役初。弄臺長尾がし。とも早咲。て神楽此。心化とほ。とむ。
 後年。傳九郎と改。又八代目。勘之郎と。う。森田座。繪屏風。酒吞童子。金時。中
 園。役者。を人。て不入。り。享保十九寅年。春。中村座。ハ。六公。今。機。ぞ。う。宗十郎
 九郎助。狐の女郎。買市川。宗。之。る。眼の。玉。友。姉。川。村。郎。弟。之。密。生。膳。の。狂。言
 小宗十郎。宗。の。次。郎。と。て。つ。み。あ。り。せ。海。ま。あ。ら。た。ひ。世。所。の。愁。歎。仍。も。古。今
 稀。る。れ。大。高。と。今。の。世。で。い。ひ。傳。ふ。一。だ。ん。目。之。立。目。の。對。面。宗。之。郎。二。藤。大。谷
 新。在。備。門。梶。原。中。村。吉。兵。衛。朝。比。奈。之。條。勘。之。郎。十。郎。伊。之。郎。五。郎。宗。十。郎。と
 京。の。次。郎。也。て。小。袖。を。か。う。の。せ。り。ぬ。大。評。判。見。か。へ。ふ。あ。る。れ。宗。之。郎。也。又。宗。之。郎。也。又。宗。之。郎。也。
 浅間。嶽。都。秀。太。夫。千。中。ワ。キ。都。合。を。更。之。中。右。淨。り。わ。て。弟。之。密。宗。十。郎。也。



宗十郎

小袖
かしの
せのぬ

宗十郎
伊之郎

五郎助
萩井伊之郎

宗の二郎
沢村十郎

十郎
三條勘太郎

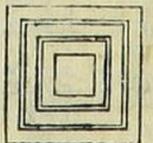
未^と二^りあふすれ^どめ^の校^のけ^の初^の美^の空^をさ^すても^も青^の月^代え^接し^るる^る
それ^が二^り入^り河^津の^二計^詰安^がつ^とか^らま^りす^り即^成候^に五^郎時^宗今^日の^見
糸^まね^張山^の猪^配一^ふ鶴^万龜^さつ^くの^声松^が枝^のぶ^らい^りり^とす^れ
萬^歳一^万歳^とた^る人^も目^も知^らず^存在^する^のは^まま^留。

■^せら^あの^の 友人^勤も^はば^く風^流相^生獅^子石^橋の^二作^業兼^之無^初て^つと^りて^実心^の
古今^の双^の大^商の^柳の^風流^石橋^の兼^之道^の達^人何^れ兼^之無^初て^つと^りて^実心^の
其上^へ自^分の^工夫^をり^て振^を附^しゆ^る妙^く奇^くれ^ばあ^り今^も侍^へて^家の^流
と^稱と^す同^春市^村座^陸奥^三勢^源氏^一嵐^之右^衛門^病氣^全快^して^喜ば^れ狂^言
是^れ得^手と^言え^ばな^らば^いふ^も不^當の^二也^に五^人男^團十^郎廣^治考^之郎^は
五^郎竹^之忠^役者^持り^しが^評判^うと^す五^月より^八棟^葛源^氏源^之位^頼政^は
竹^之忠^猪の^とや^太團^十郎^秋より^根元^今川^狀五^十郎^不破^の付^左衛^門山^本勘^助の

升^五郎^あへ^勇士^揃け^合軍^談ひ^やり^別よ^く大^入大^繁昌^の同^年霜^月坂^東亮^五郎^嵐
嵐^之右^衛門^姉川^新四^郎坐^る中^村新^五郎^中村^座へ^り中^村座^見勢^源氏^京慶^堂中^珠
鎌^豆と^言ふ^十郎^今鬼^羅枚^を備^へて^実の^万戸^お軍^中村^新五^郎あ^へけ^り合^大で^ま
入^鹿の^大臣^ふと^甫右^衛門^のげ^のせん^と右^兵衛^門が^但せ^らら^ば振^さん^と火^律の中^へお^と
さん^とと^るふ^へ山^上浦^内あ^て候^と南^から^ら顔^を打^ちり^出あ^らう^とあ^らう^り
かん^のい^よと^七と^郎市^村座^の陸^奥三^勢源^氏一^と目^定治^の橋^姫の^鬼女^竹之^忠
渡^辺の^細圖^十郎^此所^をあ^てあ^へ人^問答^大評^判法^系の^武衛^宗三^郎加^茂の^次
次^郎富^五郎^其つ^とせん^とと^るあ^らう^とと^る声^け鎌^倉の^持五^郎あ^て市^川
園^義大^のつ^と兼^之無^初の^團妙^女房^松崎^の兼^之無^初庄^五郎^其つ^と田^長
長^四郎^あへ^け合^の長^唄よ^て挽^久の^所作^のあ^へ兼^之無^初織^大小^斤あ^へ女^れ
れ^身ぶ^り男^女の^仕分^け兼^之無^初井^筒の^連所^作の^次あ^らう^と任^座治^と草^摺

芝居年表 卷之二

ひまき 川の手り。家任女房。きこか。お弟治郎。二か目。園十郎。平ま。園妙。あて。上下。百日のづら。まがれ。役大。評判大。あて。享保二十卯年。春市村座。振分。髪。初。買。ち。お王丸。時宗。お市川。并五郎。虚無。傍の。出。浄。溜。理。尺八。初音の。寶。船。江戸。太夫。若十郎。この。狂言。の。先。年。園十郎。は。と。し。藝。之。則。宗。十郎。鬼。王。あて。切。落。見。物。の。中。より。五。中。の。間。の。ゆ。こ。ふ。ま。く。う。た。ひ。げ。し。の。あ。ま。と。む。大。評判。是。三。并。自。他。あて。江戸。中。の。ひ。と。を。と。ひ。あ。て。と。あ。大。入。大。あ。て。の。あ。り。が。四。月。中。旬。より。病。氣。あて。御。千。月。の。比。快。て。園。十。郎。の。名。の。牌。并。五。郎。へ。渡。り。我。の。親。の。推。名。海。老。藏。は。更。誹。名。之。并。も。栢。莖。と。改。る。五。代。目。白。猿。し。と。祖。父。病。氣。全。状。を。近。江。國。多。賀。大明。神。へ。祈。り。驗。有。る。れ。ゆ。え。ち。の。童。名。を。け。ぎ。木。性。の。生。な。れ。栢。と。莖。と。の。文。字。と。と。け。木。百。廿。延。と。夢。よ。に。し。り。り。付。と。か。や。中。村。座。陸。月。運。理。番。合。村。を。あ。て。ん。と。姉。川。お。代。と。あ。て。や。伊。八。お。新。五。郎。家。十。郎。お。ま。え。ん。が。親。あて。あ。ら。た。へ。の。お。豊。後。が。あ。て。改。じ。く。大。入。大。當。り。の。今。年。木。挽。町。お。ま。え。ん。は。く。く。



振分髪初買

牙二番目

市村座

淫
はくし
ほめ
言葉



鬼王新九備門
市川園十郎

命をさへんと沃澤姫のなまきれ場へちがらんと声けおき江戸町はくしのせりぬ。
 海老巻のどれと評判大入大高のし中村座の殿造藤原妻安祿の保成宗十郎源
 の親助を郎平井の保昌七之郎をばくれ浦を唐門城の女をがくし姉川
 子代にめて狐けり宗十郎の田の道行の形大で元大勢うらん市にたふ
 瀬源七郎（升五郎改市川今国十郎青龍丸荒虎ちがらくれ出大文字和僕の本
 せりぬ親父よをばくれの評判つ殿の后ふ松本幸四郎なり平お行と忠紀の
 名とら宗三郎小野山町系々忠官女侍勢よ兼次郎大江の忠三左衛門度治
 何と申大高で海老巻改名も忠病後羽織をきて度治と行合おは見均様方
 久あつても目ええはりほしと病中れ吐は上半へ家根の上お忍びけ者あつて
 高りけんを打とて押へけりのと冷気とれいづるがやらの女と名宗大勢あつ
 ちり巻を病後ゆゑ力がふいせりなり耐親のるど。伴こいらら尻にげけしと今

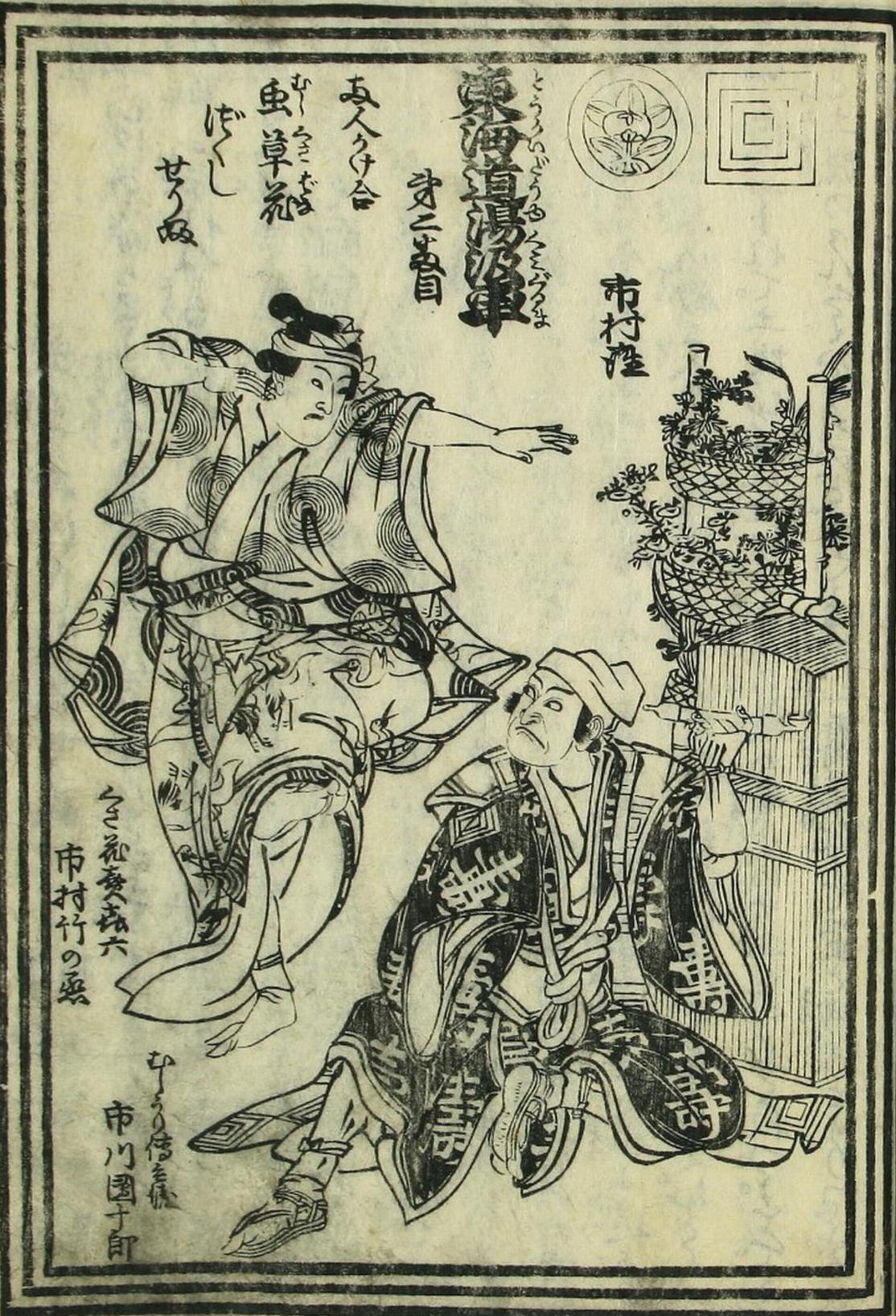
因十郎ふ荒幸次ゆげるとら見物のちやうざんをりめて中村座大入なる。
 此顔見せより沢村宗十郎。纏上上吉と評判記あり。そのころ海日のおといふ
 享保二十三年春中村座権君鑑蔵宗十郎そがの十郎めて橋の枝へ逃子と約
 林えお酒をあつらつと橋を折て焚その煙の中より姉川子代之大高のどら
 めてあられ出渡間う嶽のちやう淨ちり家橋傾城姿といふ名代大夫都千仲
 相勤め下能るの評判は。同宗十郎梅の由兵衛の男達踏と鳥を籠。組
 孺子白あもとの片身替りの衣袋此袋れとら領中へ渡をおはし見ぬ是は良
 宮川十郎左衛門を相手に男立今を始りの簾衣よりやうあよと尻かかへけ
 領中をこれの前りのれ奴ゆゑ初日ん物とらとちり声芝居も岩々といふと
 うけ狂言三ッ世は宗十郎江戸大夫双葉江戸半十郎淨ちりおを明烏とせりの枕
 相勤海ふ大入大とらりとかや此せりの改中のちやう今ふ宗十郎の名を残も

延暦年傳記

卷之二

七五

同辰年 市村座春狂言海老若高き舟出動なりぬるもや不入に。四月朔日
 より **帆柱太平記** 市川海老若二役はりの吉田の兼好入道して善好法師と
 成毎日新化の狂言を弁臺めて披々と同元祖園十郎此と回忌の追答の披
 虎門答入室覺榮信士と回向法見物大評判次は縁塚五郎の荒ぶ相模
 入道新左衛門を踏の也長崎かげ左衛門宗との草摺引のたて。大評判大角の
 ち。中村座の入を引之世と後若店おしおええり五月七日改元元文元丙辰年
 狂言 **東海道湯返車** 海老若後若左衛門の役小栗判官母竹之悪池の庄司と
 園十郎角かげこれ荒事大評判と。畫げくの世のふ二むん目かじ海老若虫らうを。
 竹之悪草花菱あてかけ合のせりぬ大入大當田なり。九月九日より。海老若
 本橋町河原崎座へゆ名残狂言 **四人不動** 目悪の不動お海老若目赤
 の不動は度治目白此不動は園十郎目青此不動は竹之悪何とも大評判なり。



東海道湯返車

市村座

五人くけ合

虫草花

せしぬ

市村竹の悪

市川園十郎

龍王御竜はくしのせりぬ

市川園十郎

我易の乾の卦曰水の洞る流れ火の乾多ふはく。虎鬪けは風強は龍吟
 どれの雲もこれコリヤ中いけあ髪をすも合の土人形たどつら。大は中が
 遠くい香も常陸下総のたんの小栗の判官兼氏が即ち池の庄司村門
 白鬚へ伊代赤あ馬の鞍打らるる下木。あやや馬の上のあ尻大
 家松まてりゆげなの。あれはの字の惚らびびびのほきはまき
 揚ると枯木の角をくくもど。お鹿方ア角もならサけがであ母は
 てもまうぬふらあ方たひひ上の龍もいふもど。あれはあはしてらる
 やあなり止ら下りおをまあふせら。それでもおけんめされ後で龍宮
 浄土へど馬みぞうが池のえ付ら。おまのたの門をあひひうせで竜王の
 はあけせんア上。あつひられたらあ夫止や。おまもすうまのきいあまん
 さて龍王ハ八龍王がんご龍王がらんご竜王まらうつら龍王もあまら

龍王とてあやう竜王あまどつら龍王まほ龍王うらはら龍王板巻軸
 と竹之悪志あうがよといと何ふまも。いざり決まれば行のうらあまの
 念佛ふせ残上下ア並ては恩らまらう時門が。ああたのはき始はあま
 次第で踏ころとら。サアまらんらあなとだあ。

同秋中村座ハ八月九之日より **増補天神記** 宗十郎菅原相の役享保九辰年より。

十二年居形の芝居あり。菅原町へ行名残。九月郎向あり嶋渡りの狂言中村
 の里あり。市村の里へつら。越向白ま娘ふ若ま中村勝十郎に名残を惜こ。
 市村の里へ我ゆふ跡くをえはといひ。見物へ討過言とのひやうんあま。
 天神の繪千幅富めてあまといふも。作者れ思ひ遠あや。十年の評判は。

歌舞妓年代記卷之二畢

